

エコアクション21

— 環境活動レポート —



レポートの対象期間：平成27年9月～平成28年8月

発行日：平成28年11月28日

東海瀝青工業株式会社

1. 組織の概要

1. 事業所名 東海瀝青工業株式会社

本社（工場及び中間処理施設）

〒421-0117

静岡県駿河区下川原南 1番 1号

電話 054-259-9564 メールアドレス toreki1@po2.across.or.jp

清水サテライト（合材貯蔵販売施設）

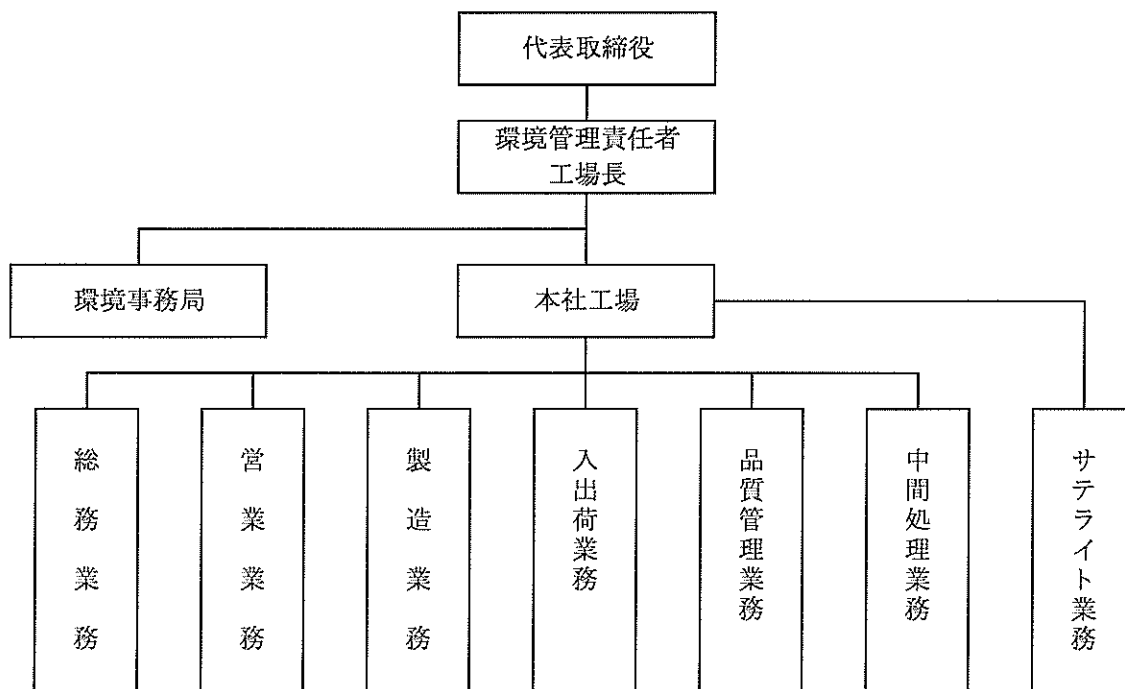
〒424-0057

静岡県清水区長崎 1042番 9号

電話 054-347-5045

2. 法人成立年月日 昭和 38年 5月 20日
3. 資本金 4,800 万円
4. 代表者氏名 代表取締役 植松 盛雄
5. 事業活動の内容 アスファルト合材 と 再生盛土材 の製造及び販売
6. 事業の規模 平成 28年度（平成27年9月 ～ 平成28年8月）
製造・販売額 618.770 千円
従業員人数 14 人
本社 事務所総延べ床面積：322.25 m²
清水サテライト 事務所総延べ床面積：15.00 m²
7. 環境管理責任者 工場長 大木 慶喜
8. 環境管理担当者 総務部長 浦田 敏弘

2. 実施体制



3. 役割、責任及び権限

担 当	役割・責任・権限
代表者	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコアクション21 に関する代表責任 ・ エコアクション21 実施における人材、設備費用を用意する ・ 環境管理責任者を任命する ・ 環境方針の制定、改訂及び従業員へ周知する ・ 代表者による全体の評価と見直しを実施する ・ 環境経営システム（環境マニュアル）を承認する
環境管理責任者 （工場長）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境経営システム全体の構築、運用、維持に関する実務上の権限を有する ・ 代表者へ報告する ・ 環境経営システム（環境マニュアル）を作成し管理する ・ 環境経営システム（環境マニュアル）の実施及び運用をする ・ 環境事務局の文書に対する審査及び改訂を指示する ・ 環境教育を実施する ・ 各業務責任者を選任する
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコアクション21における文書の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境目標及び環境活動計画を作成する ・ 環境関連法規等の取りまとめ及び遵守状況をチェックする ・ 事故及び緊急事態の想定結果及び その対応策を策定する ・ 環境負荷の自己チェック、取組の自己チェックを実施する ・ 環境教育の計画を立案する ・ 環境活動レポートを作成する
業務責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各業務における環境経営システム（環境マニュアル）を実施する ・ 問題点のチェック及び予防措置を実施する ・ 緊急事態の試行及び訓練を実施する
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境方針の確認・理解に努める ・ 各個人における環境経営システム（環境マニュアル）を実施する

4. 産業廃棄物の中間処理に係る情報公開

1. 産業廃棄物中間処理許可の内容

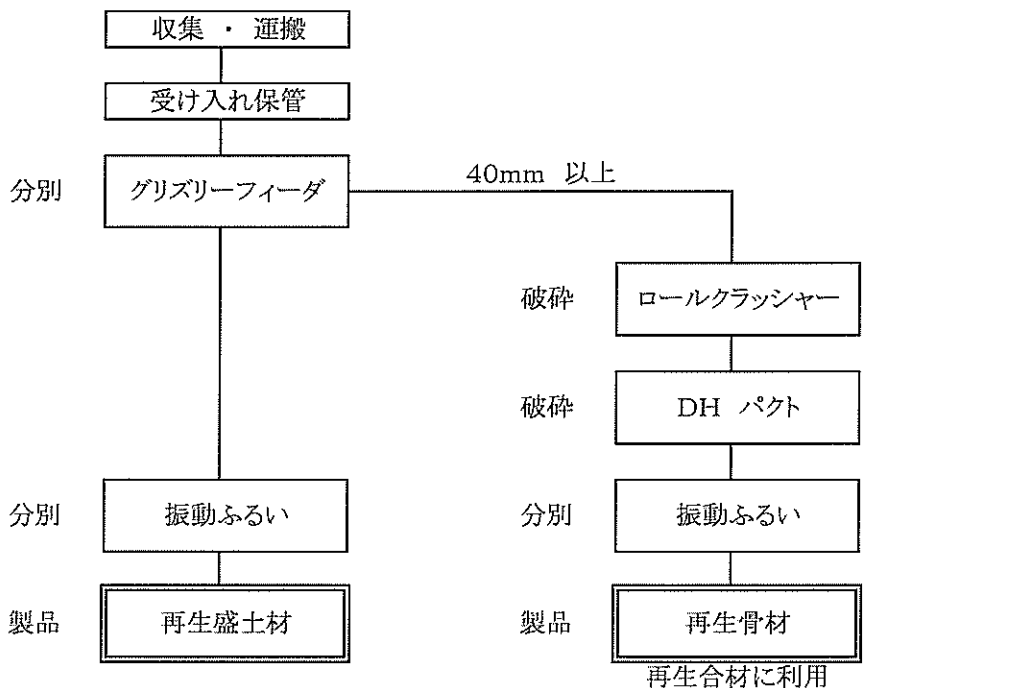
- ・ 静岡市許可番号 062 2 1008588
- ・ 許可年月日 平成28年2月27日
- ・ 有効年月日 平成33年2月26日
- ・ 事業計画の概要
受け入れたアスファルト殻をグリズリーフィーダーにより大きさの選別を行い
40mm以下は再生盛土材として販売する。
40mm以上はロールクラッシャーにより小割したものを破砕機により
0～13mmに粉砕し再生骨材として、アスファルト合材に再利用する。
- ・ 事業の範囲
事業の区分 中間処理（破砕・分別）
産業廃棄物の種類 がれき類（再利用できるアスファルトくずにかぎる）

2. 施設の状況

- ・ 施設の種類 破砕施設
- ・ 処理能力 400トン/日（50トン×8時間）
- ・ 処理方式 破砕
- ・ 施設の構造

分別	グリズリーフィーダ	DHF-4	動力	15.0 kw
	破砕	ロールクラッシャー	動力	44.0 kw
	破砕	DH パクト	DH13-10	動力 75.0 kw
	分別	振動ふるい	ML-4×10	動力 7.5 kw
	分別	振動ふるい	S7-3×8#40	動力 7.5 kw

・ 処理工程



3. 処理実績（平成27年9月～平成28年8月）

アスファルト殻受入	33,278 トン
再生骨材(アスファルト合材に使用)	20,491 トン
再生盛土材販売	25,459 トン

5. 環境方針

◆ [基本理念]

東海瀝青工業株式会社は、アスファルト合材工場として、常に『地球環境の保全』を意識し、環境経営を進めることにより、持続可能な社会の構築に貢献する

◆ [行動指針]

1. 地球環境保護のため、省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進し
二酸化炭素総排出量、廃棄物排出量、水利用の削減に努める。
また 事業活動に起因する公害等の発生を抑制する。
2. アスファルト殻の再生利用の向上に努める。
3. 事務用品のグリーン購入に努める。
4. 環境関連法規の遵守に努める。
5. 全従業員に環境関連教育を行い、環境保全の意識を高める。
6. 環境レポートを社内外に公表し、社会とのコミュニケーションを積極的に行う。
7. 環境保全は、全従業員で取り組む。

制定 平成 23年 4月 1日

改訂 平成 25年 12月 1日

東海瀝青工業株式会社

代表取締役 植松盛雄



6. 環境負荷の実績

項目	単位	平成 25 年度		平成 26 年度	
		基準年実績数値		通年 実績	
		平成 24 年 9 月 ~ 平成 25 年 8 月		平成 25 年 9 月 ~ 平成 26 年 8 月	
		数値		数値	基準年比
アスファルト合材製造量	トン	81,546.0		81,800.5	0.3%
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	2,752,938		2,725,788	
合材 1.0トン あたり	kg-CO2	33.759		33.322	-1.3%
購入電力	kwh	1,333,061		1,325,554	
排出係数		0.518		0.518	
合材 1.0トン あたり	kwh	16.347		16.205	-0.9%
重油使用量	リットル	726,130		717,080	
合材 1.0トン あたり	リットル	8.905		8.766	-1.6%
軽油使用量	リットル	35,352		35,627	
合材 1.0トン あたり	リットル	0.434		0.436	0.6%
ガソリン使用量	リットル	867		1,099	
1.0ヶ月 あたり	リットル	72.217		91.581	26.8%
LPG 使用量	m3	26.700		26.900	
1.0ヶ月 あたり	m3	2.225		2.242	0.8%
産業廃棄物排出量	トン	47.100		26.300	-44.2%
一般廃棄物排出量	トン	1.200		1.040	-13.3%
水道使用量	m3	754.000		669.600	-11.2%
化学物質量	kg	0.000		0.000	

電力排出係数 0.518 kg-CO2/kwh を採用

項目	単位	平成 27 年度		平成 28 年度	
		通年 実績		通年 実績	
		平成 26 年 9 月 ~ 平成 27 年 8 月		平成 27 年 9 月 ~ 平成 28 年 8 月	
		数値	基準年比	数値	基準年比
アスファルト合材製造量	トン	77,803.6		64,341.1	
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	2,684,054		2,333,290	
合材 1.0トン あたり	kg-CO2	34.498	2.2%	36.264	7.4%
購入電力	kwh	1,325,602		1,148,009	
排出係数		0.518		0.518	
合材 1.0トン あたり	kwh	17.038	4.2%	17.843	9.1%
重油使用量	リットル	700,960		605,430	
合材 1.0トン あたり	リットル	9.009	1.2%	9.410	5.7%
軽油使用量	リットル	36,325		36,208	
合材 1.0トン あたり	リットル	0.467	7.7%	0.563	29.9%
ガソリン使用量	リットル	1,145		1,287	
1.0ヶ月 あたり	リットル	95.425	32.1%	107.220	48.5%
LPG 使用量	m3	20.800		29.600	
1.0ヶ月 あたり	m3	1.733	-22.1%	2.467	10.9%
産業廃棄物排出量	トン	61.000	29.5%	52.850	12.2%
一般廃棄物排出量	トン	1.221	1.8%	1.343	11.9%
水道使用量	m3	854.500	13.3%	792.400	5.1%
化学物質量	kg	0.000		0.000	

7. 環境目標

項目	単位	平成 25 年度		平成 29 年度	
		H 24. 9. - H 25. 8.		H 28. 9. - H 29. 8.	
		基準年実績数値		目標数値	基準年比
アスファルト合材製造量	トン	81,546.0		80,400.0	-1.4%
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	2,752,938		2,645,642	
合材 1.0トン あたり	kg-CO2	33.759		32.906	-2.5%
購入電力	kwh	1,333,061		1,279,486	
排出係数		0.518		0.518	
合材 1.0トン あたり	kwh	16.347		15.914	-2.7%
重油使用量	リットル	726,130		699,480	
合材 1.0トン あたり	リットル	8.905		8.700	-2.3%
軽油使用量	リットル	35,352		32,160	
合材 1.0トン あたり	リットル	0.434		0.400	-7.7%
ガソリン使用量	リットル	867		1,320	
1.0ヶ月 あたり	リットル	72.217		110.000	52.3%
LPG 使用量	m3	26.700		26.400	
1.0ヶ月 あたり	m3	2.225		2.200	-1.1%
再生骨材利用量	トン	28,283.000		26,880.000	-5.0%
再生盛土材利用量	トン	18,101.500		23,100.000	27.6%
産業廃棄物排出量	トン	47.100		25.000	-46.9%
一般廃棄物排出量	トン	1.200		1.000	-16.7%
水道使用量	m3	754.600		745.000	-1.3%
化学物質量	kg	0.000		0.000	
文具グリーン購入	%	27.000		30.000	11.1%
環境配慮型機器購入	件	1.000		1.000	

電力排出係数 0.518 kg-CO2/kwh を採用

項目	単位	平成 30 年度		平成 31 年度	
		H 29. 9. - H 30. 8.		H 30. 9. - H 31. 8.	
		目標数値	基準年比	目標数値	基準年比
アスファルト合材製造量	トン				
二酸化炭素総排出量	kg-CO2				
合材 1.0トン あたり	kg-CO2				
購入電力	kwh				
排出係数					
合材 1.0トン あたり	kwh				
重油使用量	リットル				
合材 1.0トン あたり	リットル				
軽油使用量	リットル				
合材 1.0トン あたり	リットル				
ガソリン使用量	リットル				
1.0ヶ月 あたり	リットル				
LPG 使用量	m3				
1.0ヶ月 あたり	m3				
再生骨材利用量	トン				
再生盛土材利用量	トン				
産業廃棄物排出量	トン				
一般廃棄物排出量	トン				
水道使用量	m3				
化学物質量	kg				
文具グリーン購入	%				
環境配慮型機器購入	件				

※ H27年度 ガソリン使用目標増量は車種変更による。(軽自動車 → 普通乗用車)

8. 環境活動計画

項 目	H 28 目標値	取組の内容	責 任 者
電気使用量の削減 (計画出荷量 82,600 トン) (再生出荷量 59,870 トン)	1,314,496 kwh	製造工程での不要電力を削減する (タンク・サイロの保温温度の日々確認)	製造責任者
	15.914 kwh/t	始業時及び作業が重複する際の 機械類作動順序を守る	
		事務所のエアコン温度設定 夏 28 度 冬 20 度	総務責任者
		昼休みの消灯 LED 照明の段階的導入 全体の 40 %	
重油使用量の削減 (計画出荷量 86,500 トン)	718,620 リットル	骨材の含水量を 納入・使用前に 目視確認する	製造責任者
	8.700 リットル/t	製造工程での無駄をなくす (連続運転 ビンオーバー 加熱温度に注意)	
軽油使用量の削減 (計画出荷量 84,400 トン)	33,040 リットル	エンジンに必要以上の負荷を 掛けない運転を心がける	製造責任者
	0.400 リットル/t	作業休止時はエンジンストップ を徹底する	
ガソリン使用量の削減	1,080 リットル	5 分以上の暖機運転をしない	総務責任者
	90.000 リットル/月	空ふかし運転をしない	
		効率よい客先廻りを心がける	
LPG使用量の削減	26.40 m3	シャワー・給湯等温水使用時には、無駄を省く	製造責任者
	2.200 m3/月	管理試験での使用中は、こまめに消火して 使用量の低減に努める	
AS ガラの再生利用 再生骨材	26,600 トン	客先条件を考慮し、規格値内で再生配合率 の向上に努める	品質管理責任者
AS ガラの再生利用 再生盛土材	15,120 トン	発注者・客先への製品情報を提供することで 利用量を促進する	営業責任者
水の使用量の維持	745 m3	出しっぱなしにしないで、こまめに節水	製造責任者
		洗車を控える	
		防塵用水は効率よい散水に努める	
		散水処理は油水分離槽で対応	
一般廃棄物処理量削減	1.000 トン	ゴミを分別しリサイクルに努める	総務責任者
		事務系コピーの削減 (両面利用 パソコン・メールの利用促進)	
産業廃棄物処理量削減	25.000 トン	コンガラ等の発生要因になるものの 持ち込み禁止の徹底	製造責任者
		再生・再利用できるものは廃棄しない	
グリーン文具購入	30 %	文具類の購入ではグリーン製品の 購入比率を上げる	総務責任者
環境配慮型機器の導入推進 導入推進	1 件	省エネ・低公害・長寿命の製品を 優先して購入する	環境管理責任者 (工場長)
環境関連法規の遵守	1 回/年	関係法規について確認を行う	環境管理責任者 (工場長)
教育・訓練の実施	1 回/年	環境・エコアクションの勉強会の実施	環境管理責任者 (工場長)
	1 回/年	緊急事態に対応する訓練の実施	
		環境関連講習参加 及び 資格取得	
情報公開 地域関連	1 回/年	環境レポートの公表	環境管理責任者 (工場長)
		苦情等の対応処理を適切に行う	
	1 回/月	工場周辺の定期清掃	
		自治会行事への参加 清掃活動 廃品回収 他	

9. 環境目標の実績

項目	単位	H 28 目標値	H 28 実績値	達成率	評価
合材製造量	トン	82,600.000	64,341.100	77.89%	—
二酸化炭素総排出量	kg-CO2	2,717,398.280	2,333,290.000	85.86%	—
二酸化炭素総排出量 合材 1.0トンあたり	kg-CO2	32.898	36.264	90.72%	×
電力使用量 合材 1.0トンあたり	kwh	15.914	17.843	89.19%	△
重油使用量 合材 1.0トンあたり	リットル	8.700	9.410	92.45%	×
軽油使用量 合材 1.0トンあたり	リットル	0.400	0.563	71.05%	×
ガソリン使用量	リットル	1,080.000	1,286.600	83.94%	×
LPG使用量	m3	26.400	29.600	89.19%	×
再生利用（再生骨材）	トン	26,600.000	20,491.000	77.03%	×
再生利用（再生盛土材）	トン	15,120.000	25,459.000	168.38%	○
水使用量	m3	745.000	606.600	122.82%	○
一般廃棄物排出量	トン	1.000	1,021.113	0.10%	×
産業廃棄物排出量	トン	25.000	52.500	47.62%	×
グリーン文具購入	%	30.000	31.700	105.67%	○
環境配慮型機器の購入	件	1.000	2.000	200.00%	○

評価基準

- 目標を達成した
- △ 目標を達成しないが、改善はした
- × 目標を達成できなかった

10. 環境活動計画の取組結果と その評価、次年度の取組内容

項目	H 28 年度		H 28 年度の 取組内容	H 28 年度の 結果と評価	H 29 年度の 取組内容			
	目標値	実績値						
電気使用量の削減 計画合材製造 82,600トン 実績合材製造 64,341.1トン	131,496 kwh	1,269,937 kwh	製造工程での 不要電力を削減	△ プラント本体の排風機を インバーター制御にする ことによって、電気使用量 を若干低減できた。 しかし電力量の半分近くを 使用する保温電力量の影響 が大きい。	製造工程での 不要電力を削減			
	15.914 kwh/トン	17.843 kwh/トン				○ 始業時及び作業 重複時の機械作動 順序を守る	○ 重複作業を避けることを 継続できた。	○ 始業時及び作業 重複時の機械作動 順序を守る
						○ 事務所のエアコン 温度設定 夏 28 度 冬 20 度	○ 朝方のプラント電気使用と 重複をへらすため、AM8:30 まではエアコン使用をしない	○ 事務所のエアコン 温度設定 夏 28 度 冬 20 度
						○ 昼休みの消灯	○ 出来ている	○ 昼休みの消灯
重油使用量の削減 計画合材製造 82,600トン 実績合材製造 64,341.1トン	718,620 リットル	694,260 リットル	△ 骨材含水量の 使用前 目視確認	△ 含水量が多くても、 使用しなくてはならない ことがあ。	△ 骨材含水量の 使用前 目視確認			
	8.700 リットル/トン	9.410 リットル/トン	○ 製造工程での無駄 ををなくす ① 連続運転 ② ビンオーバー ③ 加熱温度	○ ①③③に注意し製造しながら 毎日流量計の記録をし 使用量を確認しているが 使用係数は運転操作でなく 連続製造量・製品温度・ 砕石温度・含水量により 変動するため、オーダー製造 であるため、削減対策は難しい	○ 製造工程での無駄 ををなくす ① 連続運転 ② ビンオーバー ③ 加熱温度			

項目	H 28 年度		H 28 年度の 取組内容	H 28 年度の 結果と評価		H 29 年度の 取組内容
	目標値	実績値				
軽油使用量の 削減 計画合材製造 82,600トン 実績合材製造 64,341.1トン	33,040 リットル	31,920 リットル	エンジンに必要以上の の負荷を掛けない 運転を心がける	△	廃材置き場でのバックホー の稼働時間が長くなると 係数に大きな影響を与える。	エンジンに必要以上の の負荷を掛けない 運転を心がける
	0.400 リットル/トン	0.563 リットル/トン				
ガンソリン使用量の 削減	1,080.0 リットル	1,320.0 リットル	5分以上の暖機 運転をしない	○	徹底できているが、販売確保 のために、客先訪問回数は 増加しざるを得ない	5分以上の暖機 運転をしない
	90.000 リットル/月	107.220 リットル/月	空ふかし運転を しない	○		空ふかし運転を しない
			効率よい客先廻り を心がける			効率よい客先廻り を心がける
LPG使用量の 削減	26.40 m3	29.60 m3	シャワー・給湯等 温水使用時には、無駄 を省く	○	出来ている	シャワー・給湯等 温水使用時には、無駄 を省く
	2.20 m3/月	2.47 m3/月	管理試験での使用中は こまめに消火して 低減に努める	○	出来ている	管理試験での使用中は こまめに消火して 低減に努める
アスガラの 再生利用量の 増加 再生骨材	26,600 トン 配合率 44.43%	20,491 トン 配合率 43.78%	客先条件を考慮し 規格値以内で配合率 の向上に努める	△	再生合材の需要が少なく 数量達成率は、77.0% であった。	客先条件を考慮し 規格値以内で配合率 の向上に努める
アスガラの 再生利用量の 増加 再生盛土材	15,120 トン	25,459 トン	発注者 客先への 製品情報を提供 することで利用促進	○	達成できた	発注者 客先への 製品情報を提供 することで利用促進
水の使用量の 維持	745.0 m3	792.4 m3	出しっぱなししない で、こまめに節水	○	無駄な使用はしていないが 井戸水のため、衛生管理上 朝方の排水量が多くなっている	現状数量維持 745 m3/年
	62.00 m3/月	66.03 m3/月	洗車を控える	○		
			防塵用水は効率よく 散水する	○		
一般廃棄物 処理量の削減	1.000 トン	1.342 トン	ゴミを分別リサイクル 努める	○	工場外清掃による可燃ゴミが 多く発生した	ゴミを分別リサイクル 努める
			事務系コピーの削減	○	出来ている	事務系コピーの削減
産業廃棄物 処理量の削減	25.000 トン	52.800 トン	コンガラ等の発生要因 になるものの持込み 禁止の徹底	○	客先案内効果が上がり 大幅な削減が出来た	コンガラ等の発生要因 になるものの持込み 禁止の徹底
			再利用可能なものは 廃棄しない	○	前年同様に鉄の分別が 出来ている	再利用可能なものは 廃棄しない
グリーン文具の 購入促進	30.0 %	31.8 %	グリーン製品の 購入比率を上げる。	○	達成できた	グリーン製品の 購入比率を上げる。
環境配慮型 機器の導入促進	1 件	2 件	省エネ・低公害 長寿命製品の優先	○	インバータモータに仕様変更 防音壁の設置	省エネ・低公害 長寿命製品の優先

項目	H 28 年度		H 28 年度の 取組内容	H 28 年度の 結果と評価		H 29 年度の 取組内容
	目標値	実績値				
環境関連法規 の遵守	1 回/年	1 回/年	関係法規について 確認を行う	○	実施	関係法規について 確認を行う
教育・訓練の 実施	1 回/年 1 回/年	1 回/年 1 回/年	環境レポートの公表	○	実施	環境レポートの公表
			緊急事態に対応する 訓練の実施	○	全員を集めた訓練の 実施あり	緊急事態に対応する 訓練の実施
			環境関連講習参加 資格取得	×	実績なし	環境関連講習参加
情報公開 地域関連	1 回/年	1 回/年	環境レポートの公表	○	実施	環境レポートの公表
			苦情等の対応処理 を適切に行う	○	騒音苦情が発生したが 騒音規制値を越えてはいない。	苦情等の対応処理 を適切に行う。 環境向上のため インバーター等を 積極的に取り入れる。
	1 回/月	1 回/月	工場周辺の定期清掃	○	実施している	工場周辺の定期清掃
			自治会行事への参加 清掃活動 廃品回収等	○	実施している	自治会行事への参加 清掃活動 廃品回収等

11. 環境関連法規等の遵守状況

1. 当社に適用される環境関連法規等の遵守を確認した結果、違反はありません。（平成28年9月）

法規・条例・規則	適用内容	該当する設備・項目	規制・基準	当社の対応	遵守状況
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	産業廃棄物処分量の許可	アスファルト殻		平成28年2月27日更新	○
	廃棄物排出事業所との委託契約	アスファルト殻		契約（書）締結	○
静岡県・静岡市産業廃棄物の適正な処理に関する条例について	収集運搬・処分業との委託契約書の許可書（写し）の保管	コンクリート殻 汚泥 混合管理型		静岡市長 静岡県知事 （最新）許可証の確認	○
	産業廃棄物管理票（マニフェスト）の管理	コンクリート殻 汚泥 混合管理型		A・B2・D・E票の5年間の保管 D票の90日以内返却 E票の180日以内返却	○
		アスファルト殻		C1票の5年間保管 報告書提出 平成28年05月25日	○
	保管基準の遵守 削減活動の実施 不法投棄禁止	コンクリート殻 汚泥 混合管理型		不法投棄は行わない	○
	廃棄物の悪臭・飛散防止			車両荷台をシートで覆う	○
建設リサイクル法	再生資源の利用促進	再生骨材 再生盛土材		再生骨材は再生アスファルト合材の骨材として 再生盛土材は建設工事の盛土材として利用	○
大気汚染防止法	ばい煙発生施設 排出基準	乾燥炉	燃焼能力 50 ℓ/h	設置届出書 平成17年3月11日	○
		窒素酸化物濃度	230 ppm	年2回測定	○ 2回
		ばい煙濃度	0.15 g/m ³ N		
硫黄酸化物	K値 10				
大気汚染防止法	粉塵発生施設	ベルト幅	75 cm以上	設置届出書 平成2年12月1日	○
		破砕機	定格出力 7.50 kw以上		
		ふるい	定格出力 15.0 kw以上		
騒音規制法 静岡県生活環境の保全等に関する条例	騒音に係る特定施設	空気圧縮機	定格出力 3.75 kw以上	設置届出書 平成17年3月11日	○
		送風機	定格出力 7.50 kw以上		
		ふるい及び分別機	定格出力 7.50 kw以上		
		アスファルトプラント	200kg以上		
	騒音規制基準	第4種区域	昼間 70 dB以下 朝夕 65 dB以下 夜間 60 dB以下	年2回測定	○ 2回

法規・条例・規則	適用内容	該当する設備・項目	規制・基準	当社の対応	遵守状況
振動規制法	振動に係る特定施設	空気圧縮機 ふるい及び 分別機	定格出力 7.50 kw以上	設置届出書 平成17年3月11日	○
	振動規制基準	第2種区域 の2	昼間 70 dB以下 夜間 65 dB以下	年2回測定	○ 2回
悪臭防止法	悪臭の基準	アスファルト プラント	静岡市公示 第147号 指数10	機器の異常等で悪臭 が発生しないよう、機械 の日常管理を徹底	○
消防法	危険物貯蔵所	地下貯蔵タンク	指定数量 2,000 ℓ	設置届出書 平成17年3月8日 最大数量40,000 ℓ のため危険物取扱者 の立会で扱う	○
消防法及 土壌汚染 対策法	漏洩の点検	地下貯蔵タンク	年1回	3年に1回は 圧力試験を実施	○
水質汚染 防止法	重油の地下への 浸透	貯油施設	※ 排水基準 の有害物質 ではない	事故発生時の応急措置 及び静岡市長への 報告	○
公害防止組織 の整備に関 する法律	公害防止管理者	大気汚染 第4種	排出ガス量 40,000 m ³ /h 以下の工場	公害防止管理者 大気第3種 2名保持	○
環境基本法	一般的な 自主努力			エコアクションへの 積極的な取り組み	○
地球温暖化 対策推進法	温室効果ガス 抑制措置			エコアクションによる 目標実現	○
環境型社会 形成推進 基本法	3Rへの努力			リデュース リユース リサイクルの推進	○
	グリーン購入			優先してグリーン商品 を購入する	○

2. 訴訟等の有無

訴訟・指摘はありません

3. 該当環境関連法規・条例の見直しについて

年1回の見直しを行う。ただし、必要に応じてはその都度見直しを行う。

12. 代表者による評価と見直し

平成28年度は、環境目標については多くの項目において未達成に終わってしまいましたが、目標達成のための環境活動については計画通り実施出来たと、評価している。

環境目標の内、製造に関わる「1トン当たりの二酸化炭素排出量」、「電力使用量」、「重油使用量」、「軽油使用量」の目標値を達成できなかった最大の要因は、生産量の減少により連続運転の機会が少なく、生産効率が低下した為でした。

顧客要求の中で、特に夜間出荷においては、社会的要求から道路の夜間施工が多くなり道路の即日復旧をしなければならない為、一日当たりの施工量が限定され、それに伴い一日当たりの製造量も減少してしまい、小間切れ稼働を余儀なくされているのが現状ですが、今後も少しでも高い目標値に向かって改善・工夫を重ねていきたい。

ガソリンの使用量については、業務用乗用車の燃料使用量が目標より多かった訳ですが、事業計画の中での営業強化の為、顧客訪問の回数を増やすという、営業目標達成の為には車両走行距離が増加した為でした。今後はハイブリッド車や電気自動車への切り替えを検討すべき時期にあると認識しております。

再生骨材については、使用量が目標未達に終わってしまったのですが、再生混合物の需要が計画より大幅に減少したのが最大の要因で、全体の出荷量に占める再生混合物の割合が低下したわけではなく、むしろ74%～83%へ増加していることから、数量的評価は×だが、取り組み姿勢はむしろ○評価としたい。

今後も、エコアクションに取り組むことによって、環境に及ぼす影響を少しでも低減し、また、活動によって社員の環境への関心度を高め、社会に貢献してゆきたいと思っております。

東海瀝青工業株式会社

代表取締役 植松盛雄

